

有機技術通信

トピックス

- 資材依存型有機農業の問題点
- 第4回公開セミナーのご案内
- 有機農業技術会議2008年度の取り組み
- 参入促進事業をはじめます

www.ofrc.net

特定非営利活動法人
有機農業技術会議 事務局
発行責任者：藤田 正雄

資材依存型有機農業の問題点

四川大地震はまことに痛ましい事態だったが、わが国へも大きな影響を与えそうである。それは何よりもリン鉱山が壊滅的な打撃を受け、リン鉱石がわが国へ輸入できなくなるのではないかとという危惧である。

「わが国は資源がないからねえ。製品を輸出して資源を輸入しないとね」この言葉は、戦後まもなくから言われていた古臭い経済界のショートコメントだが、どこかの貧相な宰相が少し前に言っていた。しかし、その場限りのお調子だけでは済まされない事態が、そろそろ迫ってきそうである。中国が資源大国としての地位を強く主張しかけているからである。これが意味することは、リンだけでなく、天然の農業用資材が容易には輸入できなくなることを意味している。

一方で有機JASに登録・許可されているからといって、天然物由来のマグネシウムやカルシウム、あるいはバットグアノなど、あまたある資材を農地に投与することで有機農産物の収量を確保しようとする考え方が、有機農業の過去から連続として続いてきたようにおもえる。そうではない！とおっしゃる向きには、別の機会に述べる低投与型有機農業として改めて説明す

西村 和雄（有機農業技術会議代表）

るが、畜糞であれ天然資源であれ、資材に依存して収量を確保することが果たして今後、続けられるものかどうか、かなり疑念を抱いているのである。

有機農業で多用されているし、官民あげて畜糞を使えと連呼されている現状に反論を言わせてもらうが、畜糞の由来は海外から輸入されている飼料穀物に起源を持ち、それはそのまま飼料が生産された海外の土地資源としての栄養分を収奪してわが国へ運んだことに他ならない。総合自給率が27%にまで低迷し、そのわずかな自給を支えている化学肥料の3倍もの輸入農産物（飼料を含む）に含まれる栄養分が、わが国の農地に投入されることは、そのまま農地の過剰な富栄養化をもたらすこと必定である。

ましてや、売れ残って廃棄される食料まで堆肥化して農地に入れようというのは、一見エコ的な生活態度を装っているだけで、食糧輸入大国である現実をごまかそうとする姑息な隠蔽手段としか思えない。地産地消というのは、わが国で生産された農産物の売れ残りや廃棄食料を堆肥化することをも意味しているのあって、決して輸入食料に該当するものではない。

第4回 公開セミナー

有機農業を基本から考える

詳細はwww.ofrc.net
をご覧ください。

今回は、福島県農業総合センターを会場に、有機農業実証圃見学会、情報交流会、および研究会を企画しました。有機農業を正しく理解していただくために、農業者のみならず、国および地方自治体の有機農業技術に係わる研究者・普及員・行政関係者、JA関係者などにもご参加いただき、有機農業について率直に話し合い、学べる場となれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日 2008年7月3日（木）-4日（金）
場所 福島県農業総合センター多目的ホール（郡山市）
参加費 1,000円（会員無料）

問合先 福島県農業総合センター有機農業推進室
E-mail: yokoi_naoto_01@pref.fukushima.jp
FAX 024-958-1727

第1日目 13:00～17:00

実証圃場見学（福島県農業総合センター試験圃場）
情報交流会「有機農業の理解を深めよう」
有機農業の定義（西村和雄氏）農地ささえる土の生き物
（藤田正雄）田舎からの国造りー生命をつなぐ有機農業ー
（山下一穂氏） 情報交流会

第2日目 9:15～15:00

セミナーⅠ「堆肥・土づくり」
土作りの基礎（橋本力男氏）事例報告（横山幸喜氏）
交流会
セミナーⅡ「有機農業の実際」
県の取組（小澤一夫氏）事例報告（丹野幸雄氏・関元弘氏）

農薬と化学肥料の投入を止めたからといって、それだけで有機農業になったと思うのは間違いである。有機農業とは地産地消を同時に意味するものであって、輸入すればね！だけでけっして済まされるものではない。

本来あるべき有機農業の姿とは、自給をも同時に意味するものでなければならない。天然鉱物だからといって海外の資源に依存した、鵜呑みの資材依存型・多投与有機農業が、我々がもめている真実の有機農業の姿だとは言えないのである。

有機農業技術会議2008年度の取り組み

5月24日、なごや女性会館（名古屋市）にて、理事会および総会を開催し、2007年度事業報告および会計報告、2008年度事業計画および予算案が承認、可決されました。

2008年度の事業の特徴は、国の有機農業推進団体支援事業（参入促進事業）の採択団体として、補助金の交付を受けて事業を行うことです。この事業と昨年度取り組んだ有機農業の技術確立と人材養成を図るための事業（研究会などの開催、機関誌などの発行）を連動させて、さらに有機農業の推進に取り組む民間団体と協力して、有機農業技術の普及と人材の育成を目指

します。

また、有機農業を正しく理解していただくために、「有機技術通信」や研究会資料の発行と、書籍『有機農業の考え方と技術』（仮題）の発刊を目指します。さらに、民間稲作研究所など有機農業関連団体と協力して、現地検討会（研修会）などを開催します。

研究会などの詳細については当技術会議のウェブサイトをご覧ください。本年度の事業を進めることによって、有機農業への理解者、実施者が増加するように、会員の皆様はじめ、多くの方々のご支援をお願いいたします。

参入促進事業をはじめます

本事業の方針、実施計画は、6月14日、東京さぬき倶楽部（東京都港区）で開催された参入促進検討会議にて承認され、事業の取り組みが開始しました。

具体的な取り組みは次のとおりです。

1. 有機農業への参入希望者を対象に、必要な情報を提供します。
2. 農業者の有機農業への理解を深めるために、全国各地の有機農業者や有機農業の推進に取り組む民間団体などと協力して、各地で相談会、交流会を開催します。
3. 研修受入可能な有機農業者などの情報を整備します。
4. ポータルサイトは、10月の開設を目指します。有機農業の研修受入先、有機農業視察・研修に関する情報など、参入希望者に参考となるデータを随時公開しながら、ウェブサイト上での相談も受け付け、参

入への支援体制を整えていきます。

5. 地域における有機農業への参入を促進するための活動を支援します。
6. 有機農業への参入実態に関する調査研究を実施します。有機農業への参入希望者に必要な情報を整理して、今後の参入方法について対策を立てるための資料とします。

これらの事業を通して、有機農業の理解者、実施者の輪を広げていきたいと考えています。相談会、交流会などの詳細については当技術会議のウェブサイトをご覧ください。



参入促進検討会議の風景

賛助会員募集のご案内

有機農業技術会議では、当会議の趣旨に賛同してくださる方を対象に賛助会員制度を設けております。会員の方々へは、電子メールによる機関誌や研究会などのご案内、研究会・研修会などへの割引参加、総合研究会への参加、ご意見・ご要望の反映などのサービスもあります。この機会に是非お申込みください。

お申し込みは技術会議事務局にご連絡ください。また当会議ウェブサイトwww.ofrc.netのホーム→入会案内からも用紙がダウンロードできます。皆様のご入会をお待ちしております。

NPO法人

有機農業技術会議事務局

〒390-1401

長野県東筑摩郡波田町5632

（財）自然農法国際研究
開発センター
農業試験場内

FAX:0263-92-6808

E-mail: office@ofrc.net

Website: www.ofrc.net